

I 北村賞

我が国における公園緑地行政のパイオニアとして、長年、公園緑地に関する理論の研究と行政実務の指導に尽くされ、また日本公園緑地協会の実質的創設者として協会の育成と発展に大きく貢献された北村徳太郎先生の業績を称えるため、日本公園緑地協会の中に「北村賞」が設けられています。

この表彰制度は、北村先生が昭和39年5月8日にご逝去されたあと、その業績を記念する事業の一環として、昭和43年3月社団法人日本公園緑地協会において「北村賞及び同基金に関する規程」及び「北村賞実施要領」を定め、公園緑地等の行政または調査、研究、計画、設計、管理・運営の理論等に全国的視点から著しい功績のあった方を表彰する制度です。

なお、この表彰は、昭和45年度から隔年ごとに実施してきましたが、昭和63年度からは毎年表彰を行っております。

第42回北村賞受賞者（敬称略・五十音順）

① ^{いぐち}井口 ^{よしや}義也（65歳）

元 国土交通省大臣官房付

現 一般財団法人都市みらい推進機構専務理事

受賞理由

氏は、平成10年から13年までの国営沖縄記念公園事務所長在職中に、首里城公園正殿が平成12年九州・沖縄サミットの首脳晩餐会会場となり、ハード面の会場整備に加え、警備・歓迎・各種ロジスティックス等のソフト面においても現場の責任者として担当機関との調整、とりまとめ、指示等を精力的に行った。結果、本サミットは大きなトラブルもなく終了し、その成功が日本の対外的な地位向上に寄与したとして高く評価される。また、サミットの主要会場となったことは、国営公園を含む公園緑地として初めてのことであり、当該公園が質的に世界的イベントの場としての水準にあることを示し、国営公園事業等の評価向上に大きく貢献すると共に公園での大規模イベント開催の模範となったといえる。このことに同氏が大きく寄与・貢献した功績は多大である。

② ^{うえはら ひろふみ} 上原 啓史 (63歳)

元 横浜市環境創造局みどりアップ推進担当理事
現 公益財団法人横浜市緑の協会理事長

受賞理由

氏は、横浜市に入庁以来、公園緑地の計画策定から整備、管理運営、緑化推進など、公園緑地行政全般について幅広く活躍された。また、公民連携の先駆けである山下公園レストハウスへのコンビニ施設導入、全国初の立体都市公園であるアメリカ山公園の整備、公園遊具の事故を契機とした遊具の点検マニュアルの刷新など、全国に先駆けた取組により、公園緑地行政の発展を牽引した。

第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催にあたっては、実施計画の策定から会場整備、運営まで主導的に取り組み、総来場者数は600万人を超え、さらに、樹木等に関する優れた知見を有し、後進への指導にあたる等、現在も公園緑地行政の発展に貢献している。このフェアの成功が2027年の横浜国際園芸博覧会 (A1クラス) 招致の契機となるなど、その功績は大きい。

③ ^{おいかわ わたる} 及川 渉 (66歳)

元 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会理事・北海道支部長
現 北海道造園設計株式会社取締役会長

受賞理由

氏は、道民が主導する参加型の花博「ガーデンアイランド北海道」の理事として、全道の自然公園や都市公園、庭園、景勝地の賛同を得て北海道を美しい庭園の島とするべく、関係機関や団体、道民と連携を図り、その普及活動に注力し、平成20年におけるイベントを成功裡に導いた。この活動は、のちの北海道ガーデン街道やガーデンツーリズムへと繋がる大きな役割を果たしている。また、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会北海道支部長として、関連する緑化団体とともに造園CPD認定プログラムとなる事業を開催し、造園系技術者の自己研鑽を積極的に支援した。道内の登録ランドスケープアーキテクト (RLA) を増やすため、資格制度の普及活動ならびに受験対策セミナー等を開催したことにより、東京・大阪・福岡の3都市であった試験会場に、札幌市内における受験を可能としたことは氏の貢献によるものであり、道内のランドスケープアーキテクトの交流を深める契機にもなっている。

④ ^{たなか}田中 ^{たかし}隆 (71歳)

元 財団法人都市緑化技術開発機構研究第一部長

受賞理由

氏は、昭和50年に建設省へ入省後、平成14年に退職するまでの28年間にわたり、主に土木研究所、国土開発技術研究センター、農業技術環境技術研究所、(財)都市緑化技術開発機構など多くの研究機関に在職され、身近なみどりから防災公園など多岐にわたる都市緑化技術に関する研究に尽力された。特に、阪神淡路大震災の被災直後の現地調査や被災者の避難行動の調査報告を行うなど、その知見は全国の防災公園の設計などに反映され、その後の公園緑地行政へ影響を与え、退官後、民間コンサルタントでも知見の普及に努めるなど、氏の功績は多大である。

⑤ ^{わくい}涌井 ^{しろう}史郎 (74歳)

現 東京都市大学特別教授

受賞理由

氏は、昭和47年に造園会社を設立し、多摩田園都市やハウステンボス、その他全国的に有名なリゾート等のランドスケープ計画・デザインを手がけており、その後その経歴を踏まえ、平成12年から桐蔭横浜大学、中部大学、東京都市大学等の様々な高等教育機関で、教授として環境保全や景観、観光等の計画に関わる教育と研究に携わっている。またその学識と経験を踏まえ、「愛・地球博」の会場演出総合プロデューサーとして会場計画や記念庭園の監修に携わったほか、国土庁水源地域対策アドバイザー、国際生物多様性年国内委員会委員長代行、その他様々な国や地方公共団体、協会等の公園緑地や環境の計画に関わる各種委員会委員、委員長等を務めている。また日本造園学会の理事、副会長も務め、任期中は造園CPD制度を立ち上げている。以上の通り、公園緑地等の計画、技術者の能力向上に関して大きく貢献した。

(年齢は令和2年3月31日現在)